

全国大学音楽教育学会会員各位

関東地区学会会員各位

2020年9月25日

全国大学音楽教育学会 関東地区学会

会長 二宮 紀子 (学会印省略)

『2020年度 第2回研究会のお知らせ』(最終案内)

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

さて、全国大学音楽教育学会 関東地区学会 第2回研究会はコロナ事情を鑑みて、オンラインでの開催となりました。皆様のご理解を賜りたく存じます。どうぞ奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

研究発表数の関係上、第1次案内と終了時刻が異なっておりますので、ご了承ください。

記

2020年度テーマ これからの「子どもの教育と音楽」 ～領域「表現」の視点から～

1 日時 2020年10月10日(土) 13:00～17:40

2 会場 Zoomにて開催
<https://us02web.zoom.us/j/9310698959?pwd=hNZOII7DO3Vor1r4SVbo2S0zKSapg>
ミーティングID: 931 069 8959
パスコード: 8KjQec

ZOOMへの、この入室情報は学会員のみにお知らせしておりますので、情報の扱いにはご注意ください。また参加申込者に限り当日入室許可を出します。必ず参加申し込みをしてください。

※Zoomインストール方法の資料が必要な方は、事務局までメールをください。添付送信いたします。

3 日程 12:40 入室開始
13:00 開会(会長挨拶と講師紹介)
13:05～14:25 講演 桶田ゆかり氏(十文字学園女子大学教授)
講演タイトル「幼稚園現場における領域『表現』の現状と課題」
《プロフィール》前文京区立第一幼稚園園長、東京都国公立幼稚園・こども園長会会長、
中央教育審議会幼児教育部会委員、学校安全部会委員
14:25～14:50 質疑応答
14:50～15:00 休憩

15:00～16:30 研究発表

(1) 「子どものうた」からイメージした平面制作とお話作り

林麻由美（東京福祉大学短期大学部）

(2) 「保育者が子どもと楽しく歌うために必要なスキルに関する考察」

アンケート分析結果と5歳児、8歳児への取り組みから

鈴木由美子（千葉敬愛短期大学）

(3) エストニアとハンガリーにおける幼児の音楽指導

—教員養成大学の音楽教員による指導事例の分析を通して—

尾見敦子（川村学園女子大学）

【配布資料について】

講演および研究発表配布資料をご希望の先生がおられましたら10/7までに事務局にメールでお申し込みください。そのメールに返信する形で配布資料データを研究会前日までにお送り致します。

●メール件名は「講演・研究発表資料申し込み」としてください。

●研究会参加者かつ資料希望者への事前配布のみとなります。事後は受け付けません。

●出欠ハガキ(10/5必着)が事務局に届かない場合は配布できませんので、ご注意ください。

メールアドレス：ryu.nakajima@nittai.ac.jp

16:30 閉会

16:40～17:40 情報交換会（コロナ対策における授業方法について）

- 4 研究会参加費 今回のオンライン開催は初の試みであり、テストケースとしての意味もありますので、今回に限り会員・一般参加ともに会費は徴収いたしません。

同封の出欠ハガキの返信を、出欠に関わらず10/5(月)必着でお願い致します。

★ホームページで各地区最新情報をごらんください。<http://nacome.com>

■講演「幼稚園現場における領域『表現』の現状と課題」 桶田ゆかり氏（十文字学園女子大学）

教育界では「不易と流行」という言葉を使います。東京都の公立幼稚園に永く勤務していた私は、平成元年度の幼稚園教育要領の改訂で6領域が5領域になったという大きな変化(流行)では、領域『表現』に特化して疑問を感じることはありませんでした。それよりも、「遊び」をどのように捉えるか、幼児の主体性を大切に保育とは何かということばかり考えていました。

そして養成校に着任し、縁あって音楽教育の専門の先生と出会い、「なぜ?」「どうして?」をたくさん投げ掛けていただきました。養成校や音楽教育専門の先生方が、幼稚園教育要領の改訂で考え悩んでおられたことは、全く考えもつきませんでした。

今回は、領域『表現』の中の音楽的な活動において何に困っていたか、5領域になったことをどのように受け止めていたか、幼児教育の基本(不易)と幼稚園教育要領改訂の内容、改訂の視点から見た音楽のことをお話したいと思います。そして改めて自分の現役当時を振り返り、幼稚園現場ではどのような思いで保育を進めているのか、「表現」の中の音楽的な活動の現状や課題をお伝えすることで、幼児教育の中で何を大切に、何を専門性として工夫し発信していったらいいか、皆様と共に考えていきたいと思っています。

■研究発表要旨

1. 「子どものうた」からイメージした平面制作とお話作り

林麻由美（東京福祉大学短期大学部）

子ども達は、現実と空想を行ったり来たりしながら自分なりの表現をしている。例えば、ある「うた」を歌ったことがきっかけで、その「うた」の世界に入り込み、そこに登場する動物になろうとしたりする。保育者はその表現を見逃さずキャッチし、共感、そして応答してあげ、さらに子ども達とその場の雰囲気と共有し、子どもの世界に辿り着くことができる様になりたいものである。そのために、保育者もイメージすることを大切にしながら、保育における総合的な表現力に磨きをかけていきたい。

この度、学生達が「子どものうた」を歌うことや、弾くことでイメージした世界を造形と言語で表現する活動を試みた。学生各自が選んだ「子どものうた」からイメージする絵を○△□で表現し、さらにそれに関連付けた子ども達に向けた「お話」を作り、クラスメートの前で発表するという授業をオンラインで実施した実践報告をする。

2. 「保育者が子どもと楽しく歌うために必要なスキルに関する考察」

アンケート分析結果と5歳児、8歳児への取り組みから

鈴木由美子（千葉敬愛短期大学）

平成31年6月千葉市幼稚園協会研修会の折に現役幼稚園教諭56人に「音楽の指導で困っていること」「養成校から現場に出た後から音楽に関することでもっとできるようになりたいこと」についてアンケート調査(自由記述)を行った。その分析結果から「保育者が歌うことの必要性和重要性を現場教員が感じている」「歌の指導法に悩んでいる」等の結果がでてきた。

以前より歌うことの重要性を感じ、「歌う」ことをピアノの個人レッスンに取り入れてきた発表者自身が、5歳児、8歳児の個人レッスンにおいて「共に歌うこと」を多く取り入れて行った実践を通して、子どもと楽しく歌うために保育者にはどのようなスキルが必要かを考察した。

3. エストニアとハンガリーにおける幼児の音楽指導

—教員養成大学の音楽教員による指導事例の分析を通して—

尾見敦子（河村学園女子大学）

就学前教育において音楽は子どもの発達に諸側面に関わっている。歌う・聴く・身体表現・創作・楽器のアンサンブルの経験は、幼児の「心身の健康」「人との関わり」「身近な環境との関わり」「言葉の獲得」「感性と表現」(5領域)のすべてに関わっているし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目のほとんどすべてを、音楽活動を通して育むことができる。「遊びを通しての指導」(幼稚園教育の基本)は音楽活動の本質に合っている。

これらをふまえるなら、私たちはどのような音楽指導ができる教師・保育者を育てることが望ましいのか。この問題を考えるために、海外の音楽教育専門家による幼児の指導事例に着目する(去年はフィンランド)。今回はエストニアとハンガリーの公立幼稚園(保育園)で継続的に行っている、毎週1回、約30分の5歳児のクラス指導の事例で、指導者は教員養成大学の音楽教員(現/元)である。活動の構成と発達を踏まえた教授法、人間教育と音楽教育のねらい、ナショナルカリキュラムとの関係を考察し、我が国への示唆を述べる。